

3 . 平成 2 1 年度事業計画書

- 1 . 概況：重点活動
- 2 . 会員の異動予想
- 3 . 会議等に関する事項
- 4 . 事業：研究・調査、研究発表・学術講習会などの開催（定款 5 条 1 号）
- 5 . 事業：会誌および学術図書の刊行（定款 5 条 2 号）
- 6 . 事業：標準化の推進、普及啓蒙（定款 5 条 3 号）
- 7 . 事業：情報技術関連の国際学協会への加盟、連絡・協力（定款 5 条 4 号）
- 8 . 事業：関連学協会との連絡、協力（定款 5 条 5 号）
- 9 . 事業：その他，目的を達成するために必要な事業（定款 5 条 6 号）

3. 平成21年度事業計画書

1. 概況：重点活動

厳しい経済状況の中で、本会の諸活動もその影響を様々に受けつつある。この認識のもと、学術活動と標準化活動については、現在の活動基盤を継続拡大して一層の活性化を目指す。さらに、アドバイザーボードからの提言に基づき、創立50周年に向けて新たな価値を創造し、本会の存在価値を増すべく活動する。具体的には次項に重点的に取り組む。

1.1 アドバイザーボードからの提言に基づくアクションプラン（詳細は9.1項を参照）

アドバイザーボードからの提言に基づき、以下の活動を行う。

(1) 中期的目標としての実施施策

- ① 実務家の経験・知識の発露の場としてのインダストリアルペーパーの創設
- ② 高度IT人材の資格認定に向けた取り組みの推進（次1.2項参照）
- ③ 標準化活動の更なる推進
- ④ 学術・実務・標準の3焦点間での連携
- ⑤ ダイバシティに向けた取り組み

(2) 短期的目標としての実施施策

- ① 積極的な新規会員勧誘と会員減の防止
- ② 広報活動の活性化と情報発信の推進
- ③ 青少年向け活動の推進
- ④ 多面的なベンチマーキング（PDCA）の実施

1.2 高度IT人材資格制度への取り組み（詳細は9.2項を参照）

昨年度（平成20年度）に纏めた情報処理技術者の資格試験のあり方を基に、実務レベルの部会を設置して、制度の詳細設計を行う。また、高度IT人材資格検討WGでは、資格制度の位置付け、インセンティブ、制度の運営体制や運営コスト等の諸課題の検討を継続する。次年度（平成22年度）には制度の試行を行う。

1.3 創立50周年記念事業の推進（詳細は9.3項を参照）

記念事業実行委員会ならびに傘下の実働委員会により次の記念事業の推進を図る。

- (1) 論文誌・研究会のオンライン化 [刊行物オンライン化委員会]
- (2) 次世代型ハンドブックの刊行 [次世代ハンドブック編纂委員会]
- (3) 記念全国大会 [記念全国大会（第72回全国大会）組織・プログラム委員会]
- (4) 記念会誌 [記念会誌編集委員会（＝当該号を編集する会誌編集委員会）]
- (5) コンピュータ将棋とプロ棋士との記念対局 [コンピュータ将棋プロジェクト委員会]
- (6) 記念論文 [記念論文選考委員会（＝記念論文の選定を行う学会論文誌運営委員会）]
- (7) 50年史の刊行 [50年史編纂委員会]
- (8) 記念式典 [記念事業総務財務委員会／記念式典実施委員会]

2. 会員の異動予想

会員種別	会員数		増減数	備考: 21年度の異動				
	21年度末	20年度末		入会		退会		除名
名誉会員	41	40	1	1	正会員から異動			
正会員	17,487	18,103	-616	500 750	学生会員から異動	1,350 1	名誉会員に異動	515
学生会員	2,329	2,298	31	1,250		450 750	正会員に異動	19
準会員	38	39	-1	10		10		1
個人会員 計	19,895	20,480	-585	2,511		2,561		535
賛助会員 (口数)	255 (512)	275 (552)	-20 (-40)	0		20 (40)		

* 正会員には終身会員 247 名を含む。

3. 会議等に関する事項

3.1 第 53 回通常総会

平成 21 年 5 月 29 日 (金) に、如水会館 (東京都千代田区) で開催する。

3.2 理事会

年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

3.3 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

4. 事業：研究・調査ならびに研究発表・学術講習会などの開催 (定款 5 条 1 号)

4. 1 調査研究活動 [所掌：調査研究運営委員会]

(1) 領域委員会, 研究会, 研究グループ

3 領域, 35 研究会, 4 研究グループにより活動を推進し, 次の 6 点を重点事項として取り組む。

- ① 新規分野の開拓
- ② 学生会員の取り込み
- ③ 領域制ならびに研究活動 (研究グループ制度の弾力化など) の見直し
- ④ 研究報告・シンポジウム論文集等の投稿・編集・発刊作業の完全オンライン化推進
- ⑤ 調査研究活動積立金の有効活用
- ⑥ 関連諸活動との連携と協調 (FIT, 全国大会, 国際等) の強化

【調査研究運営委員会：研究グループ（1）（括弧内は英略称）】

教育学習支援情報システム（CMS）研究グループ

【コンピュータサイエンス領域：研究会（10）（括弧内は英略称）】

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），計算機アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システム LSI 設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB） 各研究会

【情報環境領域：研究会（14），研究グループ（2）（括弧内は英略称）】

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グラフィクスと CAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報学基礎（FI），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），デジタルドキュメント（DD），モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システム（ITS），システム評価（EVA），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT） 各研究会
放送コンピューティング（BCC）研究グループ，セキュリティ心理学とトラスト（SPT）研究グループ

【フロンティア領域：研究会（11），研究グループ（1）（括弧内は英略称）】

自然言語処理（NL），知能と複雑系（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO） 各研究会
ネットワーク生態学（NE）研究グループ

(2) シンポジウム・講習会等（24 件）

シンポジウム・講習会等名	主催研究会略称	開催日	場所
ITS 産業フォーラム	ITS	(未定)	(未定)
先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2009	ARC, OS HPC, PRO	H21. 5. 28(木) ～29(金)	広島国際会議場
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2009) シンポジウム	DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT	H21. 7. 8(水) ～10(金)	杉乃井ホテル
HCIP2009	HCI	H21. 7. 16(木) ～17(金)	(未定)
情報教育シンポジウム (SSS2009)	GE	H21. 8. 19(水) ～21(金)	虹の松原ホテル
DA シンポジウム 2009	SLDM	H21. 8. 26(水) ～27(木)	ホテルアローレ
MPS シンポジウム (仮称)	MPS	H21. 8. 28(金) ～30(日)	大阪大学
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2009 (SES2009)	SE	H21. 9. 7(月) ～ 9(水)	東京女子大学
グループウェアとネットワークサービスワーク ショップ 2009	GN	H21. 9.	(未定)
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ	DPS	H21. 10. 7(水) ～ 9(金)	層雲閣グランドホテル
情報検索シンポジウム	FI	H21. 10. 20(火)	北海道大学
組込みシステムシンポジウム 2009 (ESS2009)	EMB	H21. 10. 21(水) ～23(金)	国立オリンピック青少年 センター
コンピュータセキュリティシンポジウム 2009	CSEC	H21. 10. 26(月)	富山国際会議場

		～30(金)	
IS チュートリアル (仮称)	IS	H21. 10. 30(金)	(未定)
ゲームプログラミングワークショップ	GI	H21. 11. 13(金) ～15(日)	箱根セミナーハウス
第 21 回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2009)	OS	H21. 11. 19(木) ～20(金)	学術情報センター
デジタルドキュメントシンポジウム 2009	DD	H21. 11. 20(金)	東洋大学
データベースシステムシンポジウム (仮称)	DBS	H21. 11.	(未定)
インターネットと運用技術シンポジウム (IOT2009)	IOT	H21. 12.	(金沢市)
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2009)	CH	H21. 12. 12(土) ～13(日)	(未定)
高度交通システムシンポジウム 2010	ITS	H22. 1. 15(金)	日本科学未来館
ウィンターワークショップ 2010	SE	H22. 1.	(未定)
2010 年ハイパフォーマンスコンピューティング と計算科学シンポジウム (HPCS2010)	HPC	H22. 1.	(未定)
インタラクシオン 2010	HCI, GN, UBI	H22. 3. 3(水) ～ 5(金)	学術総合センター

4. 2 教育活動 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 大学・大学院での専門教育向けの活動

① 情報専門学科におけるカリキュラム標準 (J07) のフォローアップ

J07 のフォローアップとして、普及活動、領域間調整 (相互比較等を含む) を行う。

② アクレディテーション

引続き大学・大学院での専門教育の質的向上を推進する。日本技術者教育認定機構 (JABEE) からの業務委託審査に加え、国際的相互承認に対応した情報分野認定 (J-CAC^{*}) への移行準備、大学院認定に向けての仕組みづくりを推進する。

※CAC : Computing Accreditation Commission

③ 大学院修士課程の教育標準

BOK, カリキュラム, アウトカムズなどの標準づくりに向けて、分野別評価機関との連携、産業界との意見交換などを含め、基盤整備を進める。

(2) 社会人向けの活動

① 科学技術振興機構 (JST) からの受託事業「Web ラーニングプラザ」の教材制作を支援する。

② 資格制度, 試験制度, CPD^{*}, 技術士制度等について, IT プロフェッショナル委員会を通じて, 必要な活動を担当する。特に, 資格制度設立に向けての BOK・カリキュラムの策定作業に着手する。

※CPD : Continuing Professional Development

(3) 初等・中等教育, 大学一般向けの活動

① 高等学校の教科「情報」に関して, 新指導要領に対する対応, 教員の知識と技能のチェックリストのフォローを実施する。また, シンポジウム等を通じて初等・中等教育現場の先生との連携を図る。高校教科「情報」新指導要領関連シンポジウムを開催する

② 大学での新しい姿の一般情報教育 (GE) を推進すべく, 一般情報処理教育の知識体系 (GEBOK) の次のステップとして GE カリキュラムの策定を開始する。また, 企業等における情報処理教育の必要性に関するアンケートを実施する。さらに, 教科書など教材の整備・提供・普及に努める。

③ 工学教育連合講演会の幹事学会として, 当該講演会の企画・運営を行う。

- ④ 各種のコンテストの後援などを継続して行うとともに、情報分野に対する学生・生徒の興味をもたせる諸活動への支援を広げていく。IS 教育コンテストを企画運営する。
- ⑤ 情報教育の俯瞰的検討（初等中等高等教育にわたって）
J12 に向けての（あるいは 50 周年を機に次の 25 年を展望した）教育大綱を検討する。

4. 3 事業活動 [所掌：事業推進委員会]

(1) 第 8 回情報科学技術フォーラム (FIT2009)

会期：平成 21 年 9 月 2 日（水）～4 日（金），会場：東北工業大学 八木山キャンパス
参加者数見込：約 1,900 名

(2) 第 72 回全国大会（学会創立 50 周年記念全国大会）（詳細は 9.3 項を参照）

会期：平成 22 年 3 月 9 日（火）～11 日（木），会場：東京大学 本郷キャンパス
参加者数見込：約 3,000 名

(3) 連続セミナー2009

産業界向けのイベントとして以下を企画，開催する。参加者数見込：約 130 名。
テーマ「進化する組込みシステム技術」

- 第1回 組込みシステムの現状
- 第2回 組込みソフトウェアプラットフォーム
- 第3回 組込みハードウェアプラットフォーム
- 第4回 組込みアプリケーション
- 第5回 組込みシステムの高信頼化-V&V
- 第6回 Advance Technique

(4) 短期集中セミナー

産業界向けのイベントとして、社会的関心度の高いテーマ、時事性の高いテーマをとりあげ、1 日開催のセミナーを事業推進委員会で検討中。年度内に 2 回実施予定。テーマは「セキュリティ」，「クラウド（インフラ，サービス，SaaS 含む）」を検討中。
参加者数見込：約 70 名

(5) プログラミング・シンポジウム

- ① 第 51 回プログラミング・シンポジウム
- ② 夏のプログラミング・シンポジウム
- ③ 情報科学若手の会

4. 4 技術応用活動 [所掌：技術応用運営委員会]

(1) IT フォーラムの活性化

- ① 自律的・継続的な活動となる仕組み
会誌に「IT フォーラム」欄（実務家向けセクション）を設定し、各フォーラムの紹介、産業界の著名人・オピニオンリーダーの寄稿等を企画する。アドバイザリーボード・ビジョン検討 WG では、インダストリアルペーパーの提案もある。
- ② アウト・リーチする仕組み
・学会イベントの ML の活用

- ・商業プロモーションとのタイアップ

(日経 IT プロ, IDC の CIO マガジン, IT メディアエグゼクティブ等 ⇒IDG および IT メディアエグゼクティブに関しては 20 年度から試行)

- ・企業のシニアマネージャによる産業界への組織的アプローチ

③ 広報委員会の設置

戦略的な広報活動を行うため, 各委員会と連携した広報委員会を設置する。

(2) ソフトウェアジャパン 2010 の開催 (2010 年 3 月の記念全国大会で開催)

- ① プログラム, 運営, 収支の改善: IT フォーラムとのシナジーの強化
- ② 表彰制度の拡充: ソフトウェアジャパン賞, IT ダイバシティ賞など
- ③ 記念全国大会での実務家向け企画の実施

(3) IT 認知拡大・イメージ向上キャンペーン

- ① 学会のブランド力向上
- ② 情報サービス産業協会 (JISA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 経済産業省, 文部科学省などとの連携による IT 産業のブランド力向上

4. 5 支部活動

- ① 支部長会議を開催し, 各支部活動の現況報告の他, 本部支部間の連絡要望等について審議, 検討する。
- ② 支部総会, 役員会, 支部大会, 電気関係学会連合大会等を開催する。
- ③ 支部活動への支援として, 支部総会への本部役員派遣, 講演会講師の紹介, 周年行事等への助成, 支部役員選挙の同時実施等を継続する。

4. 6 表彰等

- ① 功績賞, ② 論文賞, ③ 長尾真記念特別賞, ④ 山下記念研究賞, ⑤ 大会優秀賞, 大会奨励賞,
- ⑥ 優秀教育賞, 優秀教材賞, ⑦ 喜安記念業績賞, ⑧ 学会活動貢献賞, ⑨ 若手奨励賞のほか, 名誉会員の選定, フェローの認証, 感謝状の贈呈等を行う。

5. 事業: 会誌および学術図書の刊行 (定款 5 条 2 号)

5. 1 会誌「情報処理」(月刊) [所掌: 会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

川合慧編集長のもと, 社会との関わりを意識し, より一層バラエティに富んだ記事構成を目指し, 会誌の充実に努める。

(2) 広報活動

引き続き, 会誌, IPSJ メールニュース, Web サイトの連携を深め, IPSJ メールニュースへの広告掲載, Web サイトへのバナー広告掲載の魅力を高めるとともに, 広報活動に一層努力し, 広告収入増の一助とする。

5. 2 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：学会論文誌運営委員会]

(1) 「Journal of Information Processing (JIP)」の刊行体制の整備

トムソン・ロイターの Web of Science 収録基準を満たす刊行体制に向けた整備を進める。特に編集委員に海外の著名な研究者を迎え国際化を目指す。

(2) 論文査読管理システム (PRMS*) の英語での運用

論文の投稿, 査読, 採否決定などの一連の作業を電子化したシステム PRMS の英語での運用を開始し, 海外の著者・査読者が, 距離と日本語の壁に阻まれることなく投稿・査読が行える体制を強化する。運用経験に基づき, 必要に応じて改良を施す。

※PRMS : Paper Review Management System

(3) 情報関係学会英文論文合同アーカイブズ (IMT*) の刊行体制の維持

平成 18 年度より刊行している IMT の編集運営会議幹事学会として, その安定した編集および定期的な刊行を支援する。

※IMT : Information and Media Technologies

5. 3 「情報処理学会論文誌 (ジャーナル)」 (月刊) [所掌：学会論文誌運営委員会]

(1) 「情報処理学会論文誌 (ジャーナル)」

一般論文, 特集論文を含めた月刊体制を維持し, 充実させる。査読プロセスの遅延の解消に関し, 更なる対策を立てる。

(2) 論文査読管理システム (PRMS) の運用

論文の投稿, 査読, 採否決定等一連の作業を電子化したシステム PRMS の運用を行い, 必要に応じて改良を施す。

(3) 論文の充実

個々の論文の内容の充実を促すとともに, 特集号企画 (実務家向け特集, 国際会議や FIT との連動など) を検討, 推進し, 論文誌全体としての内容の充実を図る。

5. 4 「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」 [所掌：学会論文誌運営委員会]

発行の安定性と永続性, ジャーナルとの協調, 購読数の拡大を目標に, 以下の 7 誌の発行を計画し, このほか新規発行計画を促進する。

(1) 英文トランザクション (3 誌)

- | | |
|---|-------|
| ① 「IPSJ Transactions on Bioinformatics (TBIO)」 | 年発行2回 |
| ② 「IPSJ Transactions on System LSI Design Methodology (TSLDM)」 | 年発行2回 |
| ③ 「IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications (CVA)」 | 年発行4回 |

(2) 和文英文混載トランザクション (4 誌)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ① 「情報処理学会論文誌 プログラミング (PRO)」 | 年発行5回 |
| ② 「情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 (TOM)」 | 年発行3回 |
| ③ 「情報処理学会論文誌 データベース (TOD)」 | 年発行4回 |
| ④ 「情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム (ACS)」 | 年発行4回 |

5. 5 英文論文の海外オンライン発信体制 [所掌：学会論文誌運営委員会]

英文論文については、迅速に広く世界に発信するべく、次の通り J-Stage 上で公開を継続する。

- ① 前 5.2 項の「Journal of Information Processing (JIP)」
- ② 前 5.4 項の英文トランザクション 3 誌 (TBIO, TSLDM, CVA)
- ③ 前 5.4 項の和文英文混載トランザクション掲載の英文論文は「英文ポータル：IPJS Online Transactions」として公開する。

5. 6 インダストリアルペーパーの刊行 [所掌：インダストリアルペーパー準備 WG]

インダストリアルペーパー準備 WG を設置し、インダストリアルペーパー刊行に向けた準備を整え、年度内に第 1 回の刊行を目指す（詳細は 9.1 項参照）。

5. 7 学術図書 [所掌：出版委員会]

(1) 教科書シリーズ

新規の企画は行わず、既企画の見直しにより発行が可能なものがあるかどうか、あるいは既刊本のメンテナンスのため、年 2 回のペースで委員会を開催する。

(2) 英文図書：“Advanced Information Technology Series”

本会の研究動向を海外に広く発信することを目的に、引き続き 2 年間で 5 冊を目標に、標記シリーズの英文図書を発行する。また電子的な公開方法についても検討する。

5. 8 歴史関連活動 [所掌：歴史特別委員会]

(1) コンピュータ実博物館の実現および歴史的資料保存に向けての継続的活動

- ・第 2 回情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定、および選定のための現地調査等
- ・実博物館建設に向けた継続活動

(2) 「コンピュータ博物館」の充実

- ・日本語版：オフィスコンピュータ用オペレーティングシステムを追加
- ・英語版：PC サーバ、UNIX サーバを追加
- ・既公開版の総合的な見直し
- ・バナー広告等掲載の検討（収入見込み 100 万円）
- ・オーラルヒストリーのインタビュー、編集作業、公開準備作業

(3) 単行本「日本のコンピュータの歴史（1981-2000 年版）」の発行

(4) 卓越技術データベースの公開・拡充

(5) 全国大会セッション企画（私の詩と真実）の継続

5. 9 著作権 [所掌：著作権委員会]

オープンアクセスや機関レポジトリなど複雑化する著作権処理への対応を行う。また、電子情報通信学会との「連催」を 1 年間施行し、その後の対応を検討する。

6. 事業：標準化の推進ならびに普及啓蒙（定款5条3号）

6. 1 情報規格調査活動 [所掌委員会：情報規格調査会]

(1) 国際標準化活動中心メンバーとしての貢献

- ① 今のポジションを活用して JTC1 の国際標準化に貢献するとともに、議長、幹事国、コンビーナ、プロジェクトエディタの機会があれば引受ける。
- ② 新しいワークエリアに積極的に貢献する。
 - ・ SG on Sensor Networks への参加
 - ・ SG on Digital Content Management and Protection への参加

(2) 日本提案による国際標準化の推進

今後も日本発の提案がなされるよう委員会に働きかけを行い、提案実現に向けて積極的な支援を行う。

(3) 健全な情報規格調査会の運営

- ① 厳しい経済状況の中、運営の更なる効率化を目指す。
- ② 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持する。
- ③ 規格賛助員の国際活動への積極的参加を促し、より多くの貢献を行えるようにすることを目指す。

(4) 規約類の見直し

- ① 一般社団法人化に対応し、学会全体の規約と情報規格調査会の規約の整合性の向上を目指す。
- ② 情報規格調査会の規約の見直しを行い、規約の分かりやすさ、透明性の向上を目指す。

(5) その他

- ① クロス・ドメイン情報連携レジストリ関連国際規格の開発賛助員活動の充実
「メタモデル相互運用枠組み」関連の標準化を引続き推進する。
- ② 賛助員活動の充実
規格賛助員に向けて話題となっている技術や今後の新しい分野に関してセミナーを企画する。

7. 事業：情報技術関連の国際学協会への加盟ならびに連絡・協力（定款5条4号）

7. 1 国際活動 [所掌：国際業務委員会、IFIP 委員会]

(1) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① The 2009 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2009) の開催
開催日：2009年7月20日（月）～24日（金）、開催地：シアトル（USA）
参加者数見込み：150～250人
General Chairs：Haruo Takemura（IPSJ）、Darrell Long（IEEE-CS）
Program Chairs：Kenichi Yoshida（IPSJ）、Morris Chang（IEEE-CS）
- ② SAINT2010は韓国での開催を計画中。
- ③ 全国大会でのIEEE-CS会長招待講演予定。

(2) アジア地域学協会との連携・協力

- ① The Korean Institute of Information Scientists and Engineers（KIISE）との連携・協力
双方の全国大会において交互に会長を招聘し、招待講演を実施している。21年度はKIISE大会で本会

から招待講演を行う。

(3) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

- ① IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加
- ③ IFIP 活動周知の活性化
 - ・ IFIP 活動報告を年 1 回会誌に掲載する。
 - ・ 会誌の会議レポートページを活用し、各 TC の主要国際会議の会議レポートを掲載する。
 - ・ メールニュース、Web を利用した IFIP 活動（会議案内等）の情報発信を行う。

(4) その他

- ① 国際会議の開催
- ② The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加
- ③ 他の海外学会との協力関係継続

8. 事業：関連学協会との連絡および協力（定款 5 条 5 号）

8. 1 関連学協会・日本学術会議

(1) 電気・情報関連学会連絡協議会および日本工学会への参加

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会（情報・システムソサエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ）との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前 4.3 項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

8. 2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜、会議の協賛後援等を行う。

9. 事業：その他、目的を達成するために必要な事業（定款 5 条 6 号）

9. 1 アドバイザリーボードからの提言に基づくアクションプランの推進

(1) 中期的目標としての実施施策

- ① 実務家の経験・知識の発露の場としてのインダストリアルペーパーの創設

[所掌：インダストリアルペーパー準備 WG]

実務家の経験・ノウハウを分析・分類し、体系化して共有化することを目的とするインダストリアルペーパーを創設する。このため、インダストリアルペーパー準備 WG を設置し、査読基準策定や発刊方法の具体的検討を行うとともに、本年度内に第 1 回の発行を目指す。

- ② 高度 IT 人材の資格認定に向けた推進（次 9.2 項参照） [所掌：IT プロフェッショナル委員会]
- ③ 標準化活動の更なる推進 [所掌：情報規格調査会]
情報規格調査会において行っている標準化活動の成果を積極的に外部発信する。
- ④ 学術・実務・標準の 3 焦点間での連携 [所掌：技術応用運営委員会]
「学術」「実務」「標準」の全ての人が集まって議論できる場の提供を行っていく。
- ⑤ ダイバシティに向けた取り組み [所掌：技術応用運営委員会／総務財務運営委員会]
IT ダイバシティフォーラムの活動に加え、情報処理分野の女性・外国人へのプレゼンス向上を図る。

(2) 短期的目標としての実施施策

- ① 積極的な新規会員勧誘と会員減の防止 [所掌：総務財務運営委員会]
1) 理事が先導して勧誘活動をする, 2) 既存会員や支部役員等に新規会員を勧誘するインセンティブを与える, 3) 退会理由の分析と対応策を検討する, 4) 電子メール等で会員継続の呼びかけを行う, 5) 会費の口座引落の推進により「滞納→除名」を防止するなどの具体的施策を図る。
- ② 広報活動の活性化と情報発信の推進 [所掌：広報委員会]
メディアの活用, 表彰制度, 高度人材育成への取り組みなどを積極的に外部に働きかける必要がある。そのために各委員会と連携した広報委員会を設定して, 戦略的な広報発信を行うようにする。
- ③ 青少年向け活動の推進 [所掌：広報委員会]
意欲と才能のある若手が社会に対してアピールする場を作り, 同時に情報処理学会に対する認知度を高める。
- ④ 多面的なベンチマーキング (PDCA) の実施 [所掌：技術応用運営委員会／総務財務運営委員会]
会員数推移の詳細, 活動に関する指標, 費用構造, 論文数・研究会活動数などを取得・分析し, PDCA サイクルを回す。

9. 2 高度 IT 人材資格制度への取り組み [所掌：IT プロフェッショナル委員会]

- ① 昨年度（平成 20 年度）に纏めた情報処理技術者の資格試験のあり方（下記）を基に, 高度 IT 人材資格検討 WG の下に実務レベルの部会を設置し, 情報処理推進機構 (IPA) の支援も得て, 資格試験制度の詳細設計を行う。
 - ・ ITSS (IT Skill Standard) に準拠した資格制度とし, レベル 4~7 を対象とする。
 - ・ 本学会に資格認証委員会を設置する。
 - ・ 資格認証委員会委員会により認定されたアセッサーが資格審査会に派遣され, 審査を行う。
 - ・ 審査に合格した技術者を, 本学会が資格者として認証する。
 - ・ 各企業は, 審査会の場所の提供および候補者の取り纏めなどの事務処理を分担する。
 - ・ 制度設計に当っては情報処理国際連合 (IFIP) の IP3 (International Professional Practice Partnership) を参考にし, 国際的に通用する資格制度となるようにする。
- ② 高度 IT 人材資格検討 WG では, 資格制度の位置付け, インセンティブ, 制度の運営体制や運営コスト等の諸課題の検討を継続する。
- ③ 次年度（平成 22 年度）に制度の試行を行う。
- ④ IFIP の動向をウォッチし, 必要に応じて IP3 の認定が取得できるように準備しておく。

9. 3 創立 50 周年記念事業の推進 [所掌：創立 50 周年記念事業実行委員会]

創立 50 周年（平成 22 年度）に向けて、記念事業実行委員会ならびに各事業の実働委員会により、昨年度に引き続き、記念事業の推進を図る。必要経費は記念事業積立資産を取り崩して充当する。

(1) 基本方針

多様な形で拡大する情報の新たな時代の中で、平成 22 年（2010 年）には次の 50 年の夢を追えるような新たな学会の姿を見せ、将来の発展に寄与しうる記念事業とする。

- ① 全会員に何らかの形で記念事業の内容が還元されるようにするとともに、対外的にも学会を広く PR できるような内容とする。
- ② 特別な年の記念事業として、諸企画を行う。
- ③ 将来の発展に資するよう過去 50 年の成果を振り返り総括する。

(2) 具体的な事業内容（※ [] 内は実働委員会）

- ① 論文誌・研究会活動のオンライン化の実現 [刊行物オンライン化委員会]

国立情報学研究所（NII）の協力も得て、単に紙を無くすことや、価格の低減化ばかりではなく、オンライン化により得られるメリット（例えば、(a) 紙を無くすことによる機動性の確保、(b) 将来の新しい可能性の先取り、(c) プログラムや画像データを論文に追加することによるマルチメディア性の確保、(d) 機関リポジトリなど著者の情報発信をより自由にする可能性の拡大等）を最大限に追求していく。

これまでに、平成 19 年度には論文誌のオンライン出版体制を整備し、平成 20 年度には論文誌（ジャーナル・トランザクション）について紙媒体での出版を廃止してオンライン出版に完全移行した。また、発行後 2 年を超える刊行物（会誌、論文誌、研究報告）については、国立情報学研究所の CiNii 上でオープンアクセス可能（平成 20 年 9 月より）とした。

本年度は、研究会の活動をオンライン化・ペーパーレス化し、平成 22 年度には論文誌と研究会刊行物の全てを低価格で購読可能とする「総合デジタルライブラリ（仮称）」の実現を目指す。

- ② 次世代型ハンドブックの刊行 [次世代ハンドブック編纂委員会]

当該分野のメリットを追求し、小項目を中心に、オンラインで常に改訂が反映可能な次世代型のハンドブックの公開を平成 22 年度に実現（初版公開は平成 22 年 3 月予定）し、広く一般への公開を推進する。コンテンツは査読による品質管理を行い、コンテンツの執筆が研究者としての業績にもなるよう予定するとともに、将来的に継続可能な運営体制の整備も目指す。

- ③ 記念全国大会 [記念全国大会（＝第 72 回全国大会）組織委員会／プログラム委員会]

平成 22 年 3 月の全国大会を記念全国大会として、特別イベントの企画等を含め実施する。

会 期 平成 22 年 3 月 9 日（火）～11 日（木）

会 場 東京大学 本郷キャンパス

テーマ 「コンピュータの無い社会を想像できますか？」

- ④ 記念会誌 [記念会誌編集委員会（＝当該号を編集する会誌編集委員会）]

平成 22 年に「記念会誌」と位置付ける特集号を刊行する。

- ⑤ コンピュータ将棋とトッププロ棋士の記念対局 [コンピュータ将棋プロジェクト委員会]

コンピュータシステムとソフトウェアの性能を最大限まで発揮することを要求したコンピュータ将棋とトッププロ棋士の対戦を平成 22 年秋に実施し、IT 技術の進歩に貢献する。

- ⑥ 記念論文 [記念論文選考委員会（＝記念論文の選定を行う学会論文誌編集委員会）]
50周年記念論文を公募し、記念式典（平成22年11月18日）において表彰する。
- ⑦ 50年史の刊行 [50年史編纂委員会]
本会50年の歴史の記録として、30年史「30年のあゆみ」以降を中心に編纂し、記念式典（平成22年11月18日）での配布を予定する。
- ⑧ 記念式典 [記念事業総務財務委員会／記念式典実施委員会]
式典・記念講演・祝賀パーティを平成22年11月18日に実施する。

9.4 入会促進・広報活動

(1) 学生会員の獲得と育成

引続き学生会員の1研究会登録の無料化を継続し、学生会員の研究会参加を促進するとともに、研究会と支部の協力を得て正会員への定着率の向上に努める。

(2) 新たな賛助会員の獲得

実務家やITプロフェッショナルに向けた取組み（前9.1項、9.2項）や、技術応用活動（前4.4項）の活動等と連携し、賛助会員のメリットを引き続き検討するとともに、新たな賛助会員の獲得に努める。

(3) その他

- ・各種行事等の場において入会促進ならびに広報活動を推進する。
- ・情報関連企業への電子メールによる学会紹介、IPSJメールニュースの充実等の広報活動を推進する。
- ・情報関連展示会の場において本会の活動を紹介する。

9.5 運営体制の充実・改善等

(1) 公益法人改革への対応

「一般社団法人」への移行認可を待ち、移行後は新公益法人制度に即した運営を推進していく。

(2) 電子化の推進

- ① 学会マネジメントシステムの会員認証／プロフィール更新機能等の本格運用を実施する。セキュリティ機能を強化、ユーザビリティの改善を図る。
- ② 論文査読管理システム（PRMS）の機能強化、ユーザビリティの改善を図る。トランザクション査読管理システムの開発を推進する。
- ③ 研究報告、シンポジウム論文の電子投稿受付システムの開発を推進し、運用を開始する。
- ④ NIIとの共同プロジェクト「情報学研究基盤」を推進し、総合デジタルライブラリ制度とサイトライセンス制度の導入を検討する。
- ⑤ Web、メールサーバのOSバージョンアップに伴うリニューアルを行う。

以上

4 . 平成 2 1 年度収支予算書

- 1 . 収支予算計算書（正味財産増減計算書ベース）
- 2 . 収支予算計算書 内訳表（正味財産増減計算書ベース）

新々公益法人会計基準（平成 20 年 4 月 11 日）様式による

5 . 会費滞納会員の取扱い

6 . 名誉会員の推薦

7 . 平成 2 1 年度役員改選

8 . 一般社団法人移行に伴う
定款の追加変更